

2014 年度前期 工学部メディカルシステム工学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1L001001	メディカル工学セミナー	1 年前期木曜 2 限	羽石 秀昭他	T1L 1
T1L104001	生体生理工学 I	1 年前期月曜 4 限	五十嵐 辰男	T1L 2
T1L115001	数値計算	3 年前期火曜 2 限	高橋 応明	T1L 3
T1L118001	信号処理論	3 年前期木曜 5 限	山口 匡	T1L 4
T1L136001	メディカルシステム実験 II	3 年前期月曜 3,4,5 限	中口 俊哉	T1L 5
T1L152001	プログラミング特講 I	2 年前期火曜 5 限	菅 幹生	T1L 6
T1L154001	運動学および力学	2 年前期水曜 2 限	大須賀 敏明	T1L 7
T1L161001	システム制御工学 I	3 年前期水曜 1 限	兪 文偉	T1L 8
T1L166001	メカトロニクス工学	3 年前期木曜 4 限	中村 亮一他	T1L 9

授業科目名	: メディカル工学セミナー
担当教員	: 羽石 秀昭, 川村 和也
年次・開講時限	: 1 年前期木曜 2 限
授業コード	: T1L001001
授業アンケート	: 回答者数 45 人 / 受講者数 50 人 (回収率 90%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 16 件)

研究概要の紹介もプレゼンも、概ね好評だったように思います。学生のプレゼンを聞いていて、できればもう少し長く質問の時間があればよいと思いましたが、人数や時間の関係でやむを得ないところです。高学年になって、特に研究室に入れば、たっぶりやるようになります。

ぜひ全員、単位を落とさず、4年生に進級してくださいね!

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 13 件)

改善すべき点について、コメントをもらえてよかったです。

研究紹介について:「研究内容がわかってよかった」といったコメントが多かったですが、「レポートを書く時間がない」「あわただしい」という指摘が複数ありました。これまでに2人の教員の紹介だったのですが今年は3人にしましたが、指摘のようなマイナスの面もあったようです。レポートを書く時間の確保など、改善を検討したいと思います。

実験について:「時間が短い」というコメントが複数ありました。工学系の実験はしばしば長引いてしまいますが、少し検討してみます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 羽石秀昭

授業科目名	: 生体生理工学 I
担当教員	: 五十嵐 辰男
年次・開講時限	: 1 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1L104001
授業アンケート	: 回答者数 37 人 / 受講者数 42 人 (回収率 88%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 36 件)

チュートリアル形式の授業を行っている。グループごとに小テーマを設定して、各自教えあうことで情報の共有を図っている。教材自体は小テーマとヒントとなる教材を自作し、配布している。全員が 5 ~ 3 の評価を付けたのはよいが、これは教材よりも、学生自身の学習と意見交換が円滑に行われているものと考え。よい傾向と思われるので、次年度もこの方針を踏襲する。

Q4. Q3 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 24 件)

64 % の学生が「教員の声が聞き取れない」と答えており、そのほぼ全員が早口と不明瞭な発音を指摘している。私とすれば反省至極である。ゆっくり話すことは幼少時から指導されているものの 60 年以上改善がない。病的とは言えないが吃音が治らず、日本語を話す訓練を受けようかと考えている。英語は後天的な訓練により学習したもので、むしろこの方が日本語より発音しやすい。いっそ、英語で講義をしようとも思うが益々聞き取りにくくなるのであろうか。

Q6. Q5 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 18 件)

学生の半数から板書が見にくい、という回答を得た。そのほぼ全員が文字が読みにくい、というものであった。要は、字が下手なのであり、これは年を経るごとにひどくなっていることを自覚している。丁寧に書けばよいのだが、限られた時間で書ける情報量には制限があるので、必要なものを絞り込んでいきたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業目標の達成度は、当初期待した通りと考えます。話し言葉といい、私の脳の運動野の問題と思われるので、わからない時には「わからない」と指摘していただくとフィードバックになります。

3. その他のコメントや連絡事項

この授業は入学直後に始まるので、アイスブレイクを兼ねてグループ学習をしています。当初は講義主体の授業をしていましたが、私だけが走ってゆくような状況になり、より多くの学生の目標達成には届かないと感じておりました。グループ学習では、学生が理解したことを発表するので、理解度に沿った進捗と、理解度の評価ができるので手法としてはよかったです。また、グループ学習には学生側の能力も必要なのですが、私の期待以上の能力を発揮していただいているので、満足しています。

早めに、同級生に溶け込み一緒に学習していくスタイルを作ることは、学部生活を楽しくしていく上で大事なことです。それ以上に研究や仕事をしていくときの基本的なスタイルを形成することができると考えております。

作成(者): 五十嵐辰男

授業科目名	: 数値計算
担当教員	: 高橋 応明
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1L115001
授業アンケート	: 回答者数 34 人 / 受講者数 46 人 (回収率 74%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 32 件)

7 割が例題などが分かり易かったと回答しており, 講義内容の理解を助けることになっていると感じる.

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 32 件)

6 割が理解できたと答えており, 先の例題なども含めて, 難易度も適切だったと判断できる.

Q16. 全体を通して, この授業に満足しましたか? (回答 32 件)

授業の満足度が高く, 講義する者にとっては喜ばしい結果である.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

何に気を付ける必要があるか, ポイントは何かが分かるように, 実際の事例を出しながら説明に努めた. その結果, 理解度, 満足度も高かったため, 今後も出来るだけ具体例を出しながらポイントを絞って講義をしていくつもりです.

3. その他のコメントや連絡事項

今年度は質問も多く, 理解しようという姿勢が感じられた.

分からないことは, どんどん聞いて下さい.

作成(者): 高橋 応明

授業科目名	: 信号処理論
担当教員	: 山口 匡
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 5 限
授業コード	: T1L118001
授業アンケート	: 回答者数 37 人 / 受講者数 47 人 (回収率 79%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 32 件)
以前に比較して準備・復習に時間をかける学生が増えてきており,自ら考える状況を用意することの有効性が示されたと考える。一方で,受け身の講義で多くの情報量を期待する学生には合わないこともあり,バランスを考える必要がある。

Q16. 全体を通して,この授業に満足しましたか? (回答 33 件)
講義の性格上,複数の基盤技術をオムニバスの紹介する内容となっており,受講者としては修学度が分かりづらいようであるため,その点に注意して修正を加えることを考える。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは,見やすかったですか? (回答 34 件)
講義資料が好評のようなので,より分かりやすく講義終了後にも参考資料として使ってもらえるように工夫を続けたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義内容を十分に理解したかが分かりづらかったかもしれませんが,講義中に何度も出てくるキーワードは本講義に関連する技術分野で必須の知識です。まずはそれらの意味や理屈を捉えられたかどうかについて,再確認してみてください。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 山口 匡

授業科目名	: メディカルシステム実験 II
担当教員	: 中口 俊哉
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 3,4,5 限
授業コード	: T1L136001
授業アンケート	: 回答者数 39 人 / 受講者数 50 人 (回収率 78%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 34 件)

「はい」が 20%と期待より低い点が気になった。「ややそう言える」まで含めると 80%を超えるが、完全な理解に至っていない状態では実験の実施効果が薄れてしまう。関連授業との連携、予習の促進、実験中に解説や資料の充実などで改善したい。

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合、この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されていましたか? (回答 33 件)

「どちらとも言えない」以下の否定的な意見が 30%を超えた。自由記述にも TA 人数に対する指摘があった。現在は各実験テーマ均等に 2 名ずつ TA を割り当てているが、実験内容に応じて TA 人数を調整して改善を図りたい。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

TA に対して厳しい指摘があった。危険に繋がる可能性があった状況を見落としたことは教員も含めて十分反省すべきである。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 中口

授業科目名	: プログラミング特講 I (旧名称「プログラミング基礎」)
担当教員	: 菅 幹生
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 5 限
授業コード	: T1L152001
授業アンケート	: 回答者数 32 人 / 受講者数 56 人 (回収率 57%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 32 件)
回答者 32 名の平均的な準備学習・復習時間は 3 時間以下が 87.5%, 1 時間未満が 21.9%であり, 平均 1.5 時間程度であった。成績との相関は不明であるが, 全体的に準備学習・復習時間が少ないと思われる。復習では, 講義で出した演習問題だけではなく, 教科書などの演習問題に数多く取り組むことで, 定着すると考えられる。講義での演習問題を増やすことを検討したい。

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 31 件)
「はい」が 41.9%, 「いいえ」が 35.5%と大きく 2 グループに分かれる結果となった。教員と TA は質問のある学生を中心に対応することになるため, 質問をうまくできない学生に十分に目が届かない状況があった可能性がある。質問をしてこない学生に対して, 理解度や進捗状況を確認するようにしていきたい。

Q25. 実験・演習施設及び実験器具などは整備されておりましたか? (回答 8 件)
PC が一人一台利用できる環境であったにもかかわらず「はい」の回答が 50%であった。考えられる原因は, 演習室が午後 6 時までしか利用できないことである。もう少し遅い時間まで利用可能な統合メディアセンターの利用や, 自宅に PC がある学生には, C 言語の学習に必要な環境の構築方法の案内をしたいと思う。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

講義で利用しているスライド資料を毎回講義前に Web で公開することで, 講義中と復習に利用できるできるように工夫したことで, 授業の内容, 授業目標の達成度, 受講生の学習到達度が向上していると感じられた。来年度も改良を重ねながら続けていきたいと考えています。

3. その他のコメントや連絡事項

基本的なことを質問するのが恥ずかしい, などと遠慮せずに教員や TA に質問をして, 疑問をできるだけ早く解決していただください。もっと質問をしてくれることを期待しています。

作成(者): 菅 幹生

授業科目名	: 運動学および力学
担当教員	: 大須賀 敏明
年次・開講時限	: 2 年前期水曜 2 限
授業コード	: T1L154001
授業アンケート	: 回答者数 25 人 / 受講者数 44 人 (回収率 57%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 24 件)

MRI を実際に操作して、理論を解説することを、今後も続けます。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 25 件)

流体力学について関心を持つ学生が多いので、医療画像に関係した動画を中心に授業で見せます。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 23 件)

流体力学の数式よりも、医療用の動画を見せることを今後は多くしてゆきます。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

医用工学で CAD(Computer Aided Design) の使用は必須です。CAD ソフトにある流体解析と弾性変形解析を使用する場合に、最低のことはわかるように解説したつもりです。実際に CAD を使ってみて不明なことが出てきたら、質問に来てください。

3. その他のコメントや連絡事項

最近 体育館の空調が作る風が、競技の問題になったニュースを見ました。空調は必ず風を作りますが、病室の設計でも 問題になります。しかし病室設計の専門家はいません。興味の出た人は取り組んで 病室デザイン の分野を確立してください。

作成(者): 大須賀敏明

授業科目名	: システム制御工学 I (旧名称「システム制御理論」)
担当教員	: 兪 文偉
年次・開講時限	: 3 年前期水曜 1 限
授業コード	: T1L161001
授業アンケート	: 回答者数 33 人 / 受講者数 46 人 (回収率 72%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 29 件)

システム制御の内容を理解するため、実際の課題を解くことによって、理解を深めていく過程不可欠と認識している。また、適切に課題レポートに対するフィードバックも必要と考えている。回答の結果を見る限り、学生もこのような意識を持っているようで、今後も引き続き、課題レポートのチェック、解説に力を入れる。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 28 件)

進度が適切とは言えないと回答した受講生が 25%いた。今後、学生の理解度をこまめにチェックし、理解が不十分な学生には努力を促す。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 28 件)

理解できたとは言えないと回答した受講生が 25%いた。今後理解する学生の割合がもっと上がるように工夫していく。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

本講義は、授業目標の達成と学生の理解度の向上とのバランスを見て進めてきた。

内容によって、授業形式(最初から説明するか、一度テキストを読んで説明するか)を選択していた。また、例題選び、宿題の課題選び、そして、課題レポートの解説も、その時点で把握している学生の学習到達度を考えて行った。

しかし、25%の受講生は授業の理解ができたと言えないと回答している。今後、受講生とコミュニケーションを取り、受講生の努力を促しながら、授業を進めていく。これからも、授業内外の質問、コメントを歓迎する。

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 兪 文偉

授業科目名	: メカトロニクス工学 (旧名称「ロボット工学」)
担当教員	: 中村 亮一, 川村 和也
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 4 限
授業コード	: T1L166001
授業アンケート	: 回答者数 19 人 / 受講者数 28 人 (回収率 68%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 2 件)

医用工学と機械工学の関係を知ってもらえてなによりかと思えます。本年度としては、ロボットが動く状態を目で見えるようサンプルとして動画を多めに使用しました。次年度はもう少し医療よりのサンプルが多くなるように検討します。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 4 件)

今年度の講義では、計算手法に関して演習を実施しませんでした。レポート課題を含め、次年度は検討します。また、内容についても難解なところがあったとの意見がありましたので、これについて後半部が特に該当するのかなと思いますので、改善を検討します。具体例として挙動がわかりやすいものを併せて検討します。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 川村和也